

催吐リスク
軽度
放射線併用なし

投与プロトコール 1コース:28日間 制限なし 《開始時基準 PS:制限なし、年齢:18歳以上》	投与量	投与日	投与時間	備考
---	-----	-----	------	----

1,2コース目

内服	レナデックス錠:28mg/body	mg	day1,8,15,22 ※1	1日1回	※1 レナデックスはエムプリシティ投与の3時間前までに服用
ルートKeep	生食 500mL	—	—	—	
プレメディ(内服)	抗ヒスタミン剤+解熱鎮痛剤	—	day1,8,15,22 ※2	—	※2 プレメディ(内服)は、エムプリシティ投与の30~90分前迄に服用
プレメディ(点滴)	デキサメタゾン6.6mg + H2R拮抗剤 + 生食50mL	—	day1,8,15,22	15分	
プレメディ(点滴)終了後45分経過してエムプリシティの投与を開始する					
①	エムプリシティ:10mg/kg	mg	day1,8,15,22	下記参照	
注射用水で25mg/mLに溶解後、230mLの生食で希釈する。					
内服	レブラミド:25mg/body	mg	day1-21	1日1回	

3コース目以降

内服	レナデックス錠:28mg/body :40mg/body	mg	day1,15 ※1	1日1回	※1 レナデックスはエムプリシティ投与の3時間前までに服用
ルートKeep	生食 500mL	—	—		
プレメディ(内服)	抗ヒスタミン剤+解熱鎮痛剤	—	day1,15 ※2	—	※2 プレメディ(内服)は、エムプリシティ投与の30~90分前迄に服用
プレメディ(点滴)	デキサメタゾン6.6mg + H2R拮抗剤 + 生食50mL	—	day1,15	15分	
プレメディ(点滴)終了後45分経過してエムプリシティの投与を開始する					
①	エムプリシティ:10mg/kg	mg	day1,15	下記参照	
注射用水で25mg/mLに溶解後、230mLの生食で希釈する。					
内服	レブラミド:25mg/body	mg	day1-21	1日1回	

◆エムプリシティは0.5mL/分の投与速度で点滴静注を開始し、患者の忍容性が良好な場合は、投与速度を右のように段階的に上げることができる。ただし、投与速度は5mL/分を超えないこと。

投与時期	投与速度(mL/分)		
	投与開始 0~30分	投与開始 30~60分	投与開始 60分以降
第1サイクル	初回投与	0.5	1
	2回目投与	3	4
	3及び4回目投与	5	
第2サイクル以降	5		

◆エムプリシティによるinfusion reactionを軽減させるために、投与前に、抗ヒスタミン剤、H₂受容体拮抗剤及び解熱鎮痛剤を投与すること。また、エムプリシティと併用するデキサメタゾンは、経口投与(28mgを本剤投与の3~24時間前に投与)と静脈内投与(6.6mgを本剤投与の45分前までに投与完了)に分割して投与すること。